

宮嶋弘教授追悼号刊行にあたって

宮嶋弘教授は、昭和二十一年十一月、本学専任講師に就任されて以来、十八年の長きにわたって国語学関係の講義を担当され、国語学者としてユニークな多くの業績を残されました。その間、ほとんど医薬を必要としないまでの頑健さを見せておられたのでありますが、数年前より病床の人となられ、ついに昨年七月十四日不帰の客となりました。

故教授は、昨春、小康を得られて教壇に復帰されましたが、その折には、従来にない学問の喜びを味わっている由、洩らしておられたのでありまして、その再起はわれわれにとっても大きな喜びとするところであります。したが、春の逝くとともにまたまた臥床の人となり、はからずも急逝されたのであります。

学問の醍醐味を心ゆくまで味わいながら、その成果を見ず倒れられた時の、教授の心中は察するに余りあるものがあります。いまここにその心中をしのび、その靈の安らかならんことを祈って、ささやかながらわれわれの論集を編み、教授の靈前に献ずる次第であります。

昭和三十九年一月

立命館大学日本文学会

会 長 和 田 繁 二 郎